

# 令和7年度 学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立岡崎小学校
作成日	令和 8年 3月 6日

## 1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、自ら課題を求め、よりよく生きようとする子供の育成

## 2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○全国学力学習状況調査及び県学習到達度調査において、特に「書く」領域での県平均値以上をめざす。 ○保護者アンケート質問2「子供にわかりやすい授業の工夫をしている」で、90%以上をめざす。	○保護者アンケート質問4「いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」で、保護者80%以上を目指す。 ○各学年、道徳の研究授業を実施し、校内で協議する。	○毎日朝ごはんを食べてくる児童95%以上を目指す。 ○チャレンジランキング等を利用し体力の向上を図る取組を増やしていく。 ○設定を変えて、学期に一度は防災・避難訓練を行う。	○保護者アンケート質問1「教育活動や子どもの様子を分かりやすく知らせている」で、80%以上をめざす。 ○ゲストティーチャー等、多くの方々に学校に来ていただき、地域に開かれた学校をめざす。
重点目標に対する	○学力向上のベースとなる基本的生活習慣の定着に引き続き取り組んでいただきたい。 ○子供を主体とした学習活動を積極的に展開してほしい。 ○読書環境の充実に努めてもらいたい。 ○自分の考えや思いを言える機会を多くとってほしい。	○道徳教育を柱とし、児童の豊かな心の育成や、人権意識を高めてほしい。 ○話し合いを大事に、お互いの考えを深め、相手に伝える力を育てるを入れてはどうか。	○基本的な生活習慣を身につける意味で、引き続き、生活リズム調べをお願いしたい。 ○大部分の児童が朝食を食べていて、家庭の取組が素晴らしいと感じる。 ○防災・避難訓練の実施等、いろいろ取り組んでくれている。 ○登下校等の不審者の対応等の指導もお願いしたい。	○地域・故郷について学ぶ機会をもっと増やし、自分たちが住んでいる岡崎地区を誇りに思う子どもたちを育ててほしい。 ○地域を巻き込んだ教育活動の展開をお願いしたい。 ○外部からの教育もいろんな方向から視野が広がり、いいと思う。
取組状況に対する	○これまで取り組んできた教科担任制の成果と課題を整理し、引き続き教科担任制について研究を進めてほしい。 ○学習を理解している子としていない子の差が大きいと感じる授業があった。	○道徳科を中心に、様々な教育活動を通して、豊かな心の醸成に取り組んでほしい。 ○道徳教育に力を入れているので、上級生が下級生を思いやる心と行いをみて嬉しく感じる。 ○児童数が増加して今までの児童の縦割りの交流が薄く感じる。他に何か活動があればと思う。	○基本的な生活習慣の定着確認のため、生活調べを継続してほしい。 ○避難訓練・不審者対応訓練は、毎回想定を変える形で、引き続き実施してほしい。また登下校時や、学校外の時間の対応についても指導してほしい。	○自分たちが住んでいる岡崎地区のことを誇りに思える取組をもっと進めてほしい。 ○小・中学校の連携の取れた取組を考えてほしい。 ○長期休業中の支援を取組に入れてはどうか。
結果組の適切さの検証	○工夫しながら、焦らず進めてもらえたらと思う。 ○教科担任制、一学年一授業のメリット、デメリットを検証し、最適な授業をお願いしたい。 ○教科担任制は学力面での効果が大きく期待できる。だが、児童への指導、学習評価、教員の負担等の検証が必要である。 ○一学年一授業は教員の授業力向上だけでなく、教員の意思疎通に効果がある。	○子どものアンケート質問9「自分の考えや思いを他の人に言える」保護者アンケート質問9「学校は子どもが学習や生活について相談しやすい所である」が低いように思う。他の人に相談できないと、いじめがわからない。話しやすい環境をつくる対応が必要である。 ○児童向けの人権講習会をもっと行う必要を感じる。	○生活習慣を身につけることが大事なので、生活リズム調べに加え、登校時間の遅い児童は、保護者とも話し合ってもらいたい。 ○天候に左右される運動会で細やかなスケジュール調整感謝している。	○ホームページでの情報提供は、個人情報に配慮しつつ、更新頻度を高めてほしい。 ○岡崎地区のことを学習する機会を継続して設けてほしい。 ○ゲストティーチャー、学習ボランティアは積極的に活用できている。
改善年度に向けた意見	○授業では「書く」活動と共に、それを表現(発表)する活動を有効に取り入れてほしい。 ○読書タイムを継続するとともに、司書の配置を含め、読書環境の充実を図ってほしい。 ○本を読むことで培われる「読む・書く」の基本の大切さを子どもたちに伝えてほしい。 ○家庭科等実習を伴う授業は、先生1・2人では、児童に効果的に指導するのは難しい。学習ボランティアをもっと募った方が良かったと感じた。	○ゲームやYouTube、SNS等それらに関わる時間が増えると、勉強時間の減少や友達と関わる時間も減り、いじめにつながると思う。低学年からでも、デジタルに関わるメリット・デメリットを出前授業等で啓発してほしい。 ○植物の栽培や動物の飼育等、命の大切さを学ぶ機会としてほしい。	○ゲーム・動画・SNSの活用についてや、安全意識の向上について学習する機会を、全学年で設けてほしい。 ○登下校、川に落ちたと聞いている、子どもや保護者に注意喚起をお願いしたい。	○家庭・地域と積極的な連携を図れるよう、情報発信に力を入れてほしい。 ○地域の人たちの交流を通して人との話し方を学んでほしい。 ○ゲストティーチャーの活用を積極的に行ってほしい。

## 3 その他のご意見

- 児童会の役員が、朝、校門前で、挨拶運動や5分前行動を自ら進んで行っていることは素晴らしいと感じる。
- 教育講演会に参加する人数が少ない。
- 不登校気味だった児童が、「学校が楽しい。」と毎日通学するのを見て、担任の先生の指導、やさしさに感謝する反面、どのような対応をとっているのか見えにくい面がある。
- 時代の変化でPTAのあり方が変化するのは当然ではあるが、学校と保護者の関わりが少なくなるのが心配である。PTA会長が大変な任務であることもわかった。
- 防犯カメラの活用はどのようにしているのか。